



奈良県感染症情報

令和5年第52週(12月25日～12月31日)
令和6年第1週(1月1日～1月7日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

「インフルエンザ」「咽頭結膜熱」 警報発令中です!

今週の概要
・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)(令和6年第1週)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(52週) 増減			
1	インフルエンザ	8.25	(13.42) ↓	↓	↓	↓
2	新型コロナウイルス感染症	5.36	(4.16) ↑	→	↑	↑
3	感染性胃腸炎	2.15	(4.06) ↓	↓	↓	→
4	A群溶連菌咽頭炎	1.35	(2.03) ↓	↓	↓	↓
5	咽頭結膜熱	1.06	(1.97) ↓	↓	↓	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

インフルエンザの定点当たり報告数は第52週が13.42、第1週が8.25と減少し、警報終息基準値の「10」を下回っていますが、年末年始の体診状況を考慮し、今回は警報発令を継続します。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は第1週が5.36と、年末年始で体診される医療機関がある中、昨年より報告数が増加しており注意が必要です。感染拡大を防ぐため、日々の体調管理と「換気、消毒、距離、必要な場面でのマスク着用」などの対策を引き続きお願いします。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は1.06で、依然として報告数の多い状況が続いています。主原因はアデノウイルスで、主に接触感染で広がります。こまめに手を洗い、タオルの共有は避けましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

年末年始の体診日があるため受診数は少ないが、インフルエンザとアデノウイルス感染症は続いている。感染性胃腸炎が増加している。

アデノウイルス検査キットが欠品したため確定診断は困難となった。アデノウイルス感染症は園児とその家族での発症が多い。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが続いているがインフルエンザ一色という程の増加ではない。

今冬インフルエンザBはまだない。COVID-19は散見程度であるもののごく僅かに増加傾向の印象。無熱、嘔吐のみで胃腸炎と思われるような例で陽性例があった。症状はかきわり軽症。

他に嘔吐、水様下痢の感染性腸炎、高熱のアデノ、A群溶血性連鎖球菌がみられた。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行が続いている。Aを2回感染した例や迅速検査2回で陰性、PCRで陽性判定の例が数件あり。またインフルエンザBもみられた。

COVID-19は外来では散見される程度だが、病棟でクラスターがみられている。アデノウイルス感染症はやや減少、溶連菌感染症の流行は続いている。胃腸炎ではノロウイルス陽性例が増えだしてきた。



奈良県感染症情報

令和6年第2週(1月8日～1月14日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

「インフルエンザ」「咽頭結膜熱」 警報発令中です!

今週の概要
・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	13.64	(8.25) ↓	↓	↓	↓
2	新型コロナウイルス感染症	8.22	(5.36) ↑	↑	↑	↑
3	感染性胃腸炎	5.56	(2.15) ↑	↑	↑	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	2.09	(1.35) ↓	↓	↓	↓
5	咽頭結膜熱	1.29	(1.06) ↓	↓	↓	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

インフルエンザの定点当たり報告数は13.64で、警報発令継続となります。感染対策のひとつとして、体の抵抗力を高めるために十分な栄養とバランスのとれた食事を日ごろから心がけましょう。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は8.22で増加が続いています。感染対策として、「換気」や「手洗い」が有効です。暖房中も、定期的に窓を開けたり、換気扇を回すなどの対策をお願いします。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.56で、前週の2.15と比べ増加しています。感染性胃腸炎は、手指や食品を介して経口感染するの、流水と石鹸によるこまめな手洗いをしましょう。嘔吐物などを処理する際にも二次感染に気をつけましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

A型インフルエンザは減少傾向と思われる。B型が目立ってきた。近隣の調剤薬局でタミフルDSが調剤が出来ない状態になってきている。

嘔吐を伴う感染性胃腸炎が増加している。一部では腹痛が強い症例があった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザAが続いている。インフルエンザBも見られた。

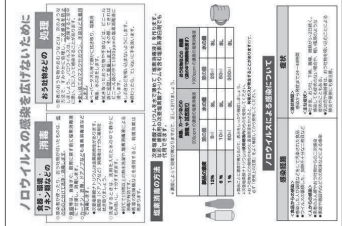
COVID-19陽性例も散見程度に持続。接触機会の多い当たらぬ乳児もあり。

先入病は発熱、短時間の嘔吐、水様下痢の感染性腸炎が僅かずつ持続。hMP肺炎、RSはみなかった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行はやや減少傾向あり。Aを2回罹患した例が数例みられている。

COVID-19は散見されるも増加は軽度。ノロウイルスを含め胃腸炎は増加。アデノウイルス咽頭扁桃炎や溶連菌感染症は依然流行が続いている。マイコプラズマ肺炎、ヒトメタニューモウイルス肺炎も散見されている。



出典:厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/



奈良県感染症情報

令和6年 第3週(1月15日～1月21日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

「インフルエンザ」 「咽頭結膜熱」 警報発令中です!

今週の概要

- 2月4日は風しんの日です
- 病原体(ウイルス)検出情報(12月)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	21.85	(13.64)	↗	↗	↗
2	新型コロナウイルス感染症	10.60	(8.22)	↗	↗	↗
3	感染性胃腸炎	8.97	(5.56)	↗	↗	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	3.38	(2.09)	↗	↗	↗
5	咽頭結膜熱	1.29	(1.29)	↘	↘	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生病況の評価を行っておりません。

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況

インフルエンザの定点当たり報告数は21.85です。12月は減少していましたが再度増加しており注意が必要です。県内全域で増加しており、特に中和保健所管内西部地域からの報告が34.00と多くなっています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は10.60で、奈良市保健所、郡山保健所、中和保健所管内で増加しています。

上記2つの感染症の主な感染経路は、飛沫感染と接触感染です。感染を拡大するための咳エチケットや体調の悪いときは外出を控えるなどの対策と、日々の体調管理をお願いします。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.97で、前週の5.56と比べ増加しています。食事前、トイレの後、調理前後は、手を石けんでよく洗い、流水で十分に流しましょう。

A群溶連菌咽頭炎の報告数が増加しています。予防には流水や石けんによるこまめな手洗い、アルコール消毒などが有効です。

◆2月4日は風しんの日です◆

風しんは、免疫のない妊婦が妊娠初期に感染すると、生まれてくる子どもに心臓、耳、目等に重大な影響が出ることもある問題となっています。将来的に妊娠を希望される本人ならびにご家族の方は、妊娠前に罹患歴やワクチン接種歴の確認をし、不明な場合は抗体検査を受けましょう。感染予防に十分な抗体がなく、ワクチンの接種を希望する方は接種を行い、妊娠に備えましょう。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和5年12月)◆

検出病原体	* ウイルス分離同定日での集計結果			
	北部	中部	南部	その他
インフルエンザ AH1pdm09	3	9	1	インフルエンザ(13)
インフルエンザ AH3	4	8		インフルエンザ(12)
アデノウイルス 3型	1	4		咽頭結膜熱(3) アデノウイルス咽頭炎(2)
ヒトメタニューモ		1		気管支肺炎(1)



奈良県感染症情報

令和6年 第4週(1月22日～1月28日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

「インフルエンザ」 「咽頭結膜熱」 警報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	24.89	(21.85)	↗	↗	↗
2	新型コロナウイルス感染症	11.51	(10.60)	↗	↗	↗
3	感染性胃腸炎	8.26	(8.97)	↗	↗	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	2.88	(3.38)	↗	↗	↗
5	咽頭結膜熱	1.21	(1.29)	↘	↘	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生病況の評価を行っておりません。

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況

インフルエンザの定点当たり報告数は24.89で、増加が続いています。特に中和保健所管内西部地域からの報告は42.50と突出しています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は11.51で、前週の10.60と比べ増加しています。上記2つの感染症予防にはマスクの着用や咳エチケット、こまめな換気など、日々の対策が効果的です。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は1.21で、県全体ではやや減少しているものの、警報発令継続中です。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.26で、前週の8.97と比べ減少していますが、発生病況はやや流行です。引き続き、こまめに手洗いをするなどして感染予防のための対策をお願いします。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19、インフルエンザは増加傾向にある。B型インフルエンザが主体となっている。

下痢症状が長引く感染性胃腸炎が微増している。

アデノウイルス咽頭炎、溶連菌感染症、HMPVも見受けられる。

花粉症での受診が始まった。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

発熱患者が増加。検査希望で外来数は急増。

インフルエンザBが増加。A型に比べやや遅く陽性になる印象。

COVID-19も少しずつ増加。インフルエンザBとコロナ同時陽性の8歳男児があった。

姉がインフルエンザ罹患中で弟がコロナ陽性例があり。

インフルエンザ検査希望であったもコロナ・インフル同時検査が必要。

感染性腸炎が僅か。突発性発疹が1例あった。

他の登録疾患はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザBが急増している。A型インフルエンザはやや減少するも、2回目のインフルエンザA感染者は増加している。

COVID-19 感染症はやや増加傾向にある。アデノウイルスや溶連菌感染症の流行も続いている。

1月下旬よりノロウイルス感染症も増加している。

奈良県感染症情報

令和6年 第5週(1月29日～2月4日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

「インフルエンザ」「咽頭結膜熱」 警報発令中です!

今週の概要

- ・ 病原体(ウイルス)検出情報(1月)
- ・ 1月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬耐性細菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	31.44	(25.96) ↑	↑	↑	→
2	新型コロナウイルス感染症	13.91	(12.25) ↑	↑	↑	↑
3	感染性胃腸炎	8.38	(8.26) ↑	↑	↑	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	3.53	(2.88) ↑	↑	↑	↑
5	咽頭結膜熱	1.12	(1.21) →	→	→	↑

発生状況：大流行 流行 やや流行 少数流行 (疾患毎に、基準値を修正しています。
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、→傾ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数は一旦減少がみられましたが、31.44で、再び警戒開始基準値の「30」を超えました。保健研究センターで実施しているウイルス検査では、年末まではほぼA型でしたが、今年に入ってB型が増えています。型の置きかわりによる感染拡大を懸念しています。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は13.91で、こちらも増加が続いています。入院基礎定点報告状況では報告数が大きく増加しており、高齢者や基礎疾患のある方などの重症化リスクの高い方ご本人および接触機会の多い方は、特に注意が必要です。
A群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数は3.53で高い値で推移しています。手洗いや、マスク着用を含む咳エチケットなどの一般的な感染予防対策の励行が大切です。
咽頭結膜熱の定点当たり報告数は1.12で未だ警報発令継続中です。タオルの共有は避け、こまめに手を洗うようにし、感染予防に努めましょう。

◆ インフルエンザが再び大々しています! ◆

◆ 感染拡大を防ぐため、対策を心がけましょう ◆

- 基本的な感染防止策(換気、消毒、距離、必要な場面でのマスク着用)を徹底し、発熱や倦怠感があるなど、少しでも体調が悪い時は外出を控えましょう。
- 外出後など、こまめに流水・石けんによる手洗いをしましょう。
- アルコール製剤による手指消毒も有効です。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和6年1月) ◆

*ウイルス分離判定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ AH1pdm09		2			インフルエンザ(2)
コクサッキー A群9型	1				発疹症(1)
アデノ 2	1				咽頭結膜熱(1)

奈良県感染症情報

令和6年 第6週(2月5日～2月11日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

「インフルエンザ」「咽頭結膜熱」 警報発令中です!

今週の概要

- ・ 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	32.58	(31.44) ↑	↑	↑	↑
2	新型コロナウイルス感染症	14.25	(13.91) ↑	↑	↑	↑
3	感染性胃腸炎	8.44	(8.38) ↑	↑	→	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	3.00	(3.53) →	→	↑	→
5	咽頭結膜熱	1.03	(1.12) →	→	→	→

発生状況：大流行 流行 やや流行 少数流行 (疾患毎に、基準値を定めています。
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、→傾ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数は32.58で増加が続いています。特に中和保健所管内西部地域からの報告は50.40と非常に高い値です。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は14.25で、同じ増加が続いています。感染拡大を防ぐため、各自がしっかりと感染対策を行いましょ。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.44で、前週の8.38と比べて増加しています。感染予防には、手洗いが有効な対策となります。調理前、食事前、トイレに行った後等には必ず手を洗いましょ。

◆ インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の感染対策 ◆

- 基本的な感染防止策(換気、消毒、距離、必要な場面でのマスク着用)を徹底し、発熱や倦怠感があるなど、少しでも体調が悪い時は外出を控えましょう。
- 外出後など、こまめに流水・石けんによる手洗いをしましょう。手指消毒も有効です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19、インフルエンザ、感染性胃腸炎が流行中です。以下のような重複感染が見られました。COVID-19 + インフルエンザ、インフルエンザ + A+B、インフルエンザ + B + 溶連菌。RS陽性例が今年初めてあった。アデノ陽性例は無かった。インフルエンザでは発熱が遷延し気管支炎を併発する例がある。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザ A、インフルエンザ B、COVID-19 感染がそれぞれ増加し混在。一家庭内にも混在し接触歴はあてはまらない。インフルエンザ A 2 度、インフルエンザ A と B 同時、インフルエンザと COVID-19 同時などウイルス重複感染が多々見られる。症状は通常経過。ノロ胃腸炎も増加、手足口病も増加の兆し、A群溶血性連鎖球菌、RS 感染も見られた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症が急増している。小児ではほとんどが普通感冒の経過をとっているが、発熱が5日以上遷延し、気管支炎を合併した例もあった。インフルエンザも B 型を中心に大流行中。A 型も散見される。またインフルエンザとアデノウイルスの合併例も数例みられた。アデノウイルスや溶連菌感染症は流行しているも、やや減少傾向にある。ノロウイルス性胃腸炎も多数でいる。各種感染症(主にインフルエンザ B)で学級閉鎖や学年閉鎖も多く、休校となったところもある。

次回週報は2024年2月22日(木)発行予定

奈良県感染症情報

令和6年 第7週(2月12日～2月18日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

「インフルエンザ」警報発令中です!

今週の概要

- 3月1日(金)から7日(木)は子ども予防接種週間です

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減		
1	インフルエンザ	22.80	(32.58) →	→	→
2	新型コロナウイルス感染症	10.65	(14.25) →	→	→
3	感染性胃腸炎	6.12	(8.44) →	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	2.21	(3.00) →	→	→
5	咽頭結膜熱	0.67	(1.03) →	→	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆
インフルエンザの定点当たり報告数は22.80と前週の32.58よりも減少しましたが、警報発令継続中です。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は10.65です。上位2疾患の主な感染経路は、飛沫感染と接触感染です。咳エチケットや体調の悪いときは外出を控えるなど、引き続き対策の継続をお願いします。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.67と、終息基準値「1」を下まわり、警戒解除となりました。

◆インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の感染対策◆

- 基本的な感染防止策(換気、消毒、距離、必要な場面でのマスク着用)を徹底し、発熱や倦怠感があるなど、少しでも体調が悪い時は外出を控えましょう。
- 外出後など、こまめに流水・石けんによる手洗いをしましょう。手指消毒も有効です。

◆3月1日(金)から7日(木)は子ども予防接種週間です◆

この期間、協力医療機関では、土曜日や日曜日等に接種できる場所があります。接種を希望される場合は、必ず、事前に問い合わせてから受診していただき、接種のときには「母子健康手帳」を持参して下さい。
(協力機関)リスト→<https://www.pref.nara.jp/secure/39576/f55vobokudomomo.pdf>

子どもの予防接種では、感染のしやすさ・重症化のしやすさ・流行状況などを考慮して、接種に適した年齢や時期などを検討し、市町村が窓口となっており、対象小児への案内や実施が行われています。引越等で接種案内が届かない場合は、転入先の市町村窓口にご相談下さい。また、疾患によっては、海外で流行しているものなどがあり、大人になつてから海外での仕事や旅行の際に困つたというケースも見受けられます。この機会に、保護者の方は「母子健康手帳の接種履歴」を確認し、接種忘れや、記載漏れがないかのチェックもお願いします。

奈良県内市町村 予防接種問い合わせ担当窓口一覧はこちらです。

<https://www.pref.nara.jp/secure/150317/hvmmadoguchi.pdf>



出典: 厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/content/10000000_01100882.pdf

奈良県感染症情報

令和6年 第8週(2月19日～2月25日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

「インフルエンザ」警報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減		
1	インフルエンザ	14.81	(22.80) →	→	→
2	新型コロナウイルス感染症	7.80	(10.65) →	→	→
3	感染性胃腸炎	5.48	(6.12) →	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	2.24	(2.21) →	→	→
5	手足口病	0.73	(0.27) ↑↑	↑↑	↑↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆
インフルエンザの定点当たり報告数は14.81でした。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は7.80でした。上記2疾患とも、2週続けての減少となりましたが、引き続きの感染予防対策をお願いします。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.48でした。中部及び南部では減少傾向ですが、北部では横ばいです。食事前、トイレに行った後、調理前等には入念に手を洗い、感染予防に努めましょう。A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.24と、高い水準を維持しています。手足口病の報告が県北部地域で急増し、定点当たり報告数は0.73となりました。同時期の過去10年平均と比較すると報告数が多く、今後の動向を注視しています。主要病原体はエンテロウイルスで、主な感染経路は飛沫や接触、糞便口感染です。自身では感染対策が十分でない乳幼児の集団生活において集団感染が起こりやすいとされています。保育施設等では注意してください。

◆インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の感染対策◆

- 基本的な感染防止策(換気、消毒、距離、必要な場面でのマスク着用)を徹底し、発熱や倦怠感があるなど、少しでも体調が悪い時は外出を控えましょう。
- 外出後など、こまめに流水・石けんによる手洗いをしましょう。手指消毒も有効です。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザとCOVID-19の流行が続いている。感染性胃腸炎も多し、点滴が必要な症例もあった。流行性耳下腺炎があった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

感冒症状の例が多く外来は増加。

インフルエンザが流行、ほとんどがB型、少ないがA型もある状況。症状は発熱、軽度の感冒症状程度。COVID-19は減少、散発程度に見られる。乳児、新生児も見られるが軽症。

家族中に蔓延することもなく感染力は強くない印象。

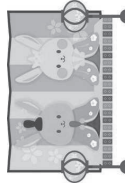
感染性肺炎も流行、短期間の罹患が主、下痢はない場合も多い。

他に、流行性耳下腺炎、手足口病、A群溶連菌連鎖球菌が見られた。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザB型の流行が続いている。A型が流行している地域もある。COVID-19感染も流行が続いている。

Aデングウイルス感染症は減少、ノロウイルス胃腸炎も減少してきている。





奈良県感染症情報

令和6年 第11週(3月11日～3月17日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 海外渡航時に気をつけたい感染症について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	6.61	(9.39) ↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	6.39	(5.67) →	→	→	↗
3	新型コロナウイルス感染症	5.98	(6.63) ↘	↘	↘	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	2.42	(3.06) →	→	→	↘
5	RSウイルス感染症	1.15	(1.18) ↑↑	↑	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの定点当たり報告数は6.61で減少、新型コロナウイルス感染症は5.98でやや減少となっています。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は6.39で、ウイルス性の集団感染症や食中毒事例が見受けられます。家庭においては調理や食事時の手洗いをしっかりと行いましょう。食品の取り扱いでは、病原体をつけない、増やさない、十分な加熱等で殺菌する、といった基本を守りましょう。

A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.42で前週に比べて減少しました。地域別では中和保健所管内西部地域で報告数が多い状態です。

RSウイルス感染症は、前週に引き続き報告数が多い状態が続いています。年度末、春体みの時期は生活が不規則になりがちです。手洗い、適切な距離、マスクの着用といった基本的な予防策に加え、体の抵抗力を保つよう体調を整えることにも留意してください。

◆海外渡航時に気をつけたい感染症について◆

海外で感染症にかかるからといって、正しい知識と予防方法を身に付けることが重要です。出発までの時間に余裕がある場合は、ワクチン接種もご検討ください。

○食べ物や水を介した消化器系の感染(A型肝炎、腸チフスなど)

感染の可能性が最も高いとされています。食事は十分に火の通ったものを食べるようにし、生水・氷・カクトフルーツの入ったものは避けましょう。

○人から人に広がる感染力の強い感染症(麻しん、風しんなど)

麻しん(はしか)は世界各地で流行がみられる感染症で、空気感染することが知られています。咳や発熱、発疹などの症状がある方との接触を避けるようにしましょう。

○蚊、ダニを介した感染症(デング熱、マラリア、日本脳炎、黄熱病、SFTSなど)

できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用するなど、蚊やダニに刺されないよう注意してください。特に、今年には熱帯、亜熱帯地域においてデング熱の大規模な流行が報告されています。

○動物を介した感染症(狂牛病、MERS、鳥インフルエンザなど)

動物は、重篤な感染症の原因となる病原体を持っている可能性があります。

むやみに動物に近づかず、動物に触れないことが大切です。

(参考)海外へ渡航される皆さまへ! (厚生労働省検疫所 FORTH)
https://www.forth.go.jp/news/20220722_00001.html



奈良県感染症情報

令和6年 第12週(3月18日～3月24日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	5.73	(6.61) ↓	↓	↓	↓
2	新型コロナウイルス感染症	5.31	(5.98) ↘	↘	↘	↘
3	感染性胃腸炎	4.24	(6.39) ↘	↘	↘	→
4	RSウイルス感染症	1.88	(1.15) ↑↑	↑	↑↑	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	1.85	(2.42) ↘	→	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの定点当たり報告数は5.73で減少、新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は5.31でやや減少となっています。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.24でやや減少となっています。毒事例が引き続き散見されています。

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.88で、前週と比べて約60%増加し急増しています。地域別では中和保健所管内西部での報告が特に多くなっています。感染しやすいとされる乳幼児や高齢者がいる家庭や集団生活の場では、手洗いの励行やマスクの着用といった基本的な感染対策をしましょう。

A群溶連菌咽頭炎は定点当たり報告数が1.85で、やや減少しています。この疾患は、昨年の6月頃から増減を繰り返して高い水準を維持しており、今後の動向を注視しています。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザは減少してきた。二峰性発熱を認めるB型が時に見られた。A型は1例のみ。

COVID-19 感染症は微増、家族内感染が多い。

RSウイルス感染症があった。大阪、京都に続き奈良も流行期に入ったようです。

水痘があった(予防接種歴有り)。マイロプラズマ気管支炎があった。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19は微増、少しずつ見られゼロにはならない。

インフルエンザBも僅かずつ持続、インフルエンザAは1例あった程度。

COVID-19、インフルエンザともに軽症経過、また家族内、近隣への伝播も強くない印象。

10歳代後半を中心にA群溶血性連鎖球菌が流行、(他院で)一旦加療終了後に発熱、再検査で再び陽性の例もあった。RS例も持続して見られる。

感染性腸炎も続いて流行、ノロ陽性例が多い。成人に発熱、頭痛を訴える例が多い。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は減少傾向がみられる。インフルエンザの流行も落ち着きました。

A群溶連菌感染症や溶連菌感染症は依然多くみられる。

胃腸炎も減少しました。

